

入札監視委員会における検証概要	
委員の質問・意見	唐津市の回答
<p>1 令和2年8月から12月までの入札又は契約手続きの運用状況について</p> <p>○ 平均落札率は示されているが、低価格で落札したことにより節約した額は示せないのか。節約し余った予算は他に使用するのではないか。</p>	<p>○ 資料1により事務局から説明</p> <p>○ 低価格での落札となれば当然予算が余ってくる。余った予算については、建設工事が完成するまでは、当初予想していなかった事態が発生し工事費を増額する場合もあるので確保しておくが、建設工事が完成し最終的に予算が余れば減額補正をすることになる。</p>
<p>2 建設工事等競争入札状況の検証について</p> <p>(1) 松浦河畔緑地防護柵設置（2-2）工事</p> <p>○ 直接工事費の大部分を材料費が占めているとの説明だったが、材料費の占める割合はどのくらいか。</p> <p>○ 入札の結果から入札参加者の受注意欲が低いと感じるが、材料費が占める割合が高ければ、受注意欲は低くなるものなのか。</p> <p>○ 防護柵が塩害に強かったり、上質なものであったりであれば材料費が高額となることも納得いくのだが、どうなのか。</p>	<p>○ 資料2により、事務局から入札の状況、工事概要、選定理由を説明</p> <p>○ 転落防護柵は単価が1m当たり4万5,000円で約100mの柵を設置しているため、柵だけで450万円となっており、工事費の約50%を占めている。</p> <p>○ 材料費が大部分を占めることで、業者の受注意欲が低くなるのは工事案件によって違ってくる。工事の発注時期によっては、業者の手持ち工事が多いときだと技術者、労働者が不足するため、受注意欲が低くなる場合もあるので、そういった影響からも落札率が高くなったのではと考えている。</p> <p>○ 防護柵を設置した散策路は松浦川をはさんで唐津城を望めるとても景観が良いところであり、景観を阻害しないような製品としている。また、設置場所が河口部であるため、塩害対策として金属部分は全てステンレス製にしている。これらの理由により、材料費</p>

委員の質問・意見	唐津市の回答
<p>○ 当該工事は防護柵を100m設置する工事だが、松浦川沿いの散策路の全てに防護柵を設置するのか。</p> <p>○ 工区ごとに防護柵の単価が変わることはないか。</p> <p>○ 工区ごとの受注業者は違うのか。</p> <p>(2) 天徳の丘運動公園多目的運動広場Bコート夜間照明改修工事</p> <p>○ 総合評価落札方式の目的は、できるだけ安い価格で高い技術力を有する業者を選定するのだが、この工事は技術力が低く、価格も安いので、公共工事としては不安に思う結果となっている。技術力が低い業者が逆転で落札してしまうのが、総合評価落札方式による入札としてはどうなのかと感じた。</p> <p>また、この工事はポールから取り替えるのか。それとも、LEDの照明機器のみ取り替えるのか。</p> <p>○ 総合評価落札方式の技術評価基準の評価項目が技術力の評価になってないところもあるが、審議案件の工事であれば、この技術評価基準でも良いと思う。構造体まで整備し将来的に老朽化したときに問題が起きそうな工事であれば、技術評価基準の評価項目は見直すべきではないか。</p> <p>(3) 唐津市小学校普通教室等空調機械設備工</p>	<p>が高額となっている。</p> <p>○ 松浦川沿いの散策路に防護柵を設置する事業は、複数の区間に分けて防護柵を設置しており、当該工事が完成することで散策路の全ての区間において防護柵を設置する事業が完了する。</p> <p>○ 防護柵の単価は全て同じである。</p> <p>○ 工区ごとに受注業者は違う。</p> <p>○ 資料2により、事務局から入札の状況、工事概要、選定理由を説明</p> <p>○ ポール部分は残して、LED照明機器の取り替えと配線工事を行う。</p> <p>また、総合評価落札方式による入札については、次点となった(株)笠原電設は技術評価点が109.3点であった。落札者の(株)岡田電機と次点の(株)笠原電設は入札価格の差が151万円であったが、仮に(株)笠原電設が入札価格を39万円安くしていれば(株)笠原電設が落札する状況であった。</p> <p>○ (株)岡田電機は、近年本店を唐津市に移された企業であり、唐津市での工事経験が浅いために技術評価点が低くなっている。</p> <p>○ 資料2により、事務局から入札の状況、工</p>

委員の質問・意見	-唐津市の回答
<p>事（鬼塚小、伊岐佐小、菘木小、厳木小）</p> <p>○ 競争入札が当たり前だとは思いますが、今までの方法から見直す時期に来ていると思う。 学校の教室に空調機器は何台設置するのか。</p> <p>○ 仮に空調機器を設置する教室が100教室あれば、100教室分を一括で発注する。そうすることで、発注額を抑えることができないか。また、工事期間は夏休み又は冬休みに限られるため、多くの業者に分散して発注し限られた期間で工事を終わらせるべきではないか。例えば、3年間の計画を立てて多くの業者を対象に学校単位で空調設備工事の入札を行えば、スムーズに行くのではないか。</p> <p>○ 子供たちの教育環境を考えると教室の空調設備の整備は、早急に進めなければならないものである。今年新型コロナウイルスの影響で民間の建築関係でも資材不足などが言われており、特に空調関係の資材が不足しており、それが原因で他の自治体で入札不調が起きているようである。</p> <p>(4) 緊急改善事業 和多田西山地区老朽管改良（2-3）工事</p> <p>○ 推進工事について、詳しく説明してほしい。</p>	<p>事概要、選定理由を説明</p> <p>○ 1教室で室内機を2台設置する。</p> <p>○ 今回の空調設備工事が特異なものとなった理由を説明すると、本来、全ての小中学校に空調設備を整備する計画は令和7年に完了する目標で進めてきた。しかし、昨年度の猛暑により国が学校の空調整備事業に対し予算措置が行われ、唐津市において学校の空調設備の整備状況が佐賀県内でも遅れていたこともあったため、急遽すべての学校に空調設備を来年度までに整備することになったところである。委員から指摘されたとおり、本来であれば数年かけて計画的に整備することで工事発注の平準化を図り、入札参加業者の競争意識を上げるべきであると考える。</p> <p>○ 空調機器の資材関係については、本市としても心配していたところであり、コロナ禍のため入札不調となるのではと考えていたが、入札不調とならず発注出来て安堵しているところである。</p> <p>○ 資料2により、事務局から入札の状況、工事概要、選定理由を説明</p> <p>○ 発進側の縦穴Φ2,500と到達側の縦穴Φ1,800の2か所を掘り、発信側の縦穴に推進</p>

委員の質問・意見	唐津市の回答
<p>○ 旧管はそのままにして新しい管を整備するのか。</p> <p>○ 旧管を取り除いて、旧管があった箇所に新しい管を整備するのではなく、旧管はそのままにしておき、別の箇所に新しい管を整備するということか。</p> <p>(5) 菜畑地区老朽管改良基本設計（2-1）業務</p> <p>○ 設計金額393万円の設計業務に14者も指名する必要があるのか。また、設計業務については、どのように設計していくか基本的な考え方を定め、同じ考えで計画的に設計していくようにし、10年又は20年の長期的に考えていくべきではないか。</p>	<p>機を設置し、推進機の後続に管を接続しながら掘り進める。この工法が推進工事である。</p> <p>○ 旧管とは別の箇所に新しい管を整備する。旧管は陥没が起きないようにモルタル充填の処置を行う。</p> <p>○ 通常は、新しい管を布設し少しずつ水を入れていき、新しい管との接続が完了したところで古い管は開削して取り除くようにしている。今回の工事の施工地域は、開削して取り除くことができないため、古い管にモルタルを充填し、空洞を無くしてそのままにしておく。</p> <p>○ 資料2により、事務局から入札の状況、業務概要、選定理由を説明</p> <p>○ 14者を指名した理由についてであるが、この設計業務については、特殊工法の検討が必要と工事担当課から依頼があったため、指名者の選定条件を指定している。条件に該当する業者は14者あり、これらの業者を指名から外す理由がないため、条件に該当する業者を全て指名している。なお、条件の一つとして全国上下水道コンサルタント協会に加盟している業者としている。当該協会の事業概要に上下水道技術の調査研究並びに会員に対する研究発表会及び講習会を実施しており、協会の会員であれば上下水道技術の先進的な知識により設計が行えるため、指名者の選定条件としている。</p> <p>また、老朽管の計画的な考え方についてであるが、唐津市では老朽管更新基本計画を定めており、20年の更新計画を立てている。その中で古い管から順番に更新していくよ</p>

委員の質問・意見	唐津市の回答
<p>○ 設計しなくて良いようにしてはどうかと思う。住宅の隣接しているところに水道管は通っている。道路沿いに水道管を通すようにすれば設計する必要はないのではないか。</p> <p>○ 選定理由説明書の回答文に「基本設計業務であり、現地調査は簡易で比較的容易な業務として捉えられたのではないかと推測している。」とあるが、そうであれば予定価格が高すぎたのではないかと思う。また、比較的容易な業務とはいえ一定の業務があるため、落札率が低いと人件費などが足りているのか考えてしまう。</p> <p>(6) 久里浄水場他自家発電設備工事設計業務</p> <p>○ 辞退理由が技術者が不足し、実施体制が確保できないということだが、入札実施前に業者に入札できるかどうかをあらかじめ確認することはできないのか。指名者20者のうち19者が辞退しており競争が働いていない。予測することは困難だと思うが、入札する意思があるのか確認してから入札をしないと入札した意味がない。</p>	<p>うに計画している。古い管をまとめて更新すると予算が足りなくなるので、予算の範囲内で順番に更新し、そうすることで、40年、50年が経過したときに、また、順番に更新できるようになると考えている。</p> <p>○ 推進工事で水道管を布設する場合、狭い道であれば個人の敷地を通ってしまったり、車のようにカーブを曲がれないなど施工しづらい箇所を別のルートがないのかということころを基本計画の中で道路の幅や地下埋設物の状況から管のルートを探し出してくれる。上下水道技術の先進的な知識により設計してもらうために設計業務を委託している。</p> <p>○ 契約金額について、受注業者と話しているわけではないが、当該金額でも当該業務が履行可能だと判断して受注しているものと考えている。また、基本設計業務の後に詳細設計業務を行うが、詳細設計業務は工事をするための条件や現場で用意するものなどを考える必要がある。受注業者に確認したわけではないが、次の詳細設計業務も受注したいという考えもあったのではないかと思う。</p> <p>○ 資料2により、事務局から入札の状況、業務概要、選定理由を説明</p> <p>○ 競争入札において、技術者の要件を高く設定すれば入札に参加できる業者も限られてくる。指名した業者に技術者がいるのかは確認できる。このような入札結果となったのは、10月の発注時点で他の設計業務に従事しているために受注できなかったようである。4、5月の時点で発注できていれば受注できる業者もいたようであるため、特殊な技</p>

委員の質問・意見	唐津市の回答
<p>○ 指名した業者には、電気電子部門の技術士の資格を有する者がいるのか。</p> <p>(7) 唐津市スマートレジリエンス拠点構築事業企画調査等委託業務</p> <p>○ 国の補助金の予算はどのくらいあるのか。</p> <p>○ 経済産業省であれば、水素の活用が考えられるが、この電力では水素はできないのではないか。</p> <p>○ この事業は、平成30年度からプロポーザル方式により業者を選定して事業を行ってきているが、実際に稼働している施設もあるのか。</p> <p>○ 蓄電池設備の電力量はどの程度あるのか。</p>	<p>術者が必要な業務については、発注時期を早めにするなどの対策が必要だと考えている。</p> <p>○ 今回の入札で指名した業者には、電気電子部門の技術士か、類似業務に25年の実務経験を有する者はいる。</p> <p>○ 資料2により、事務局から業務概要、業者選定の内容、選定理由を説明</p> <p>○ 経済産業省のエネルギー構造高度化・転換理解促進事業補助金を活用しており、当該補助金は補助率100%であり、国の予算としては72億円となっている。</p> <p>○ この事業の計画では、水素の生成設備の設置も将来考えている。太陽光発電又は風力発電を利用し水素を生成できる設備の設置を今後検討していく。委員からの指摘のとおり大量の水素の生成を計画しているわけではない。</p> <p>○ 令和元年度までに設置した施設として、太陽光発電設備（40kW）及び消化ガス発電設備（100kW）が浄水センターの電力の一部を賅っている状況である。また、太陽光発電設備（102kW）及び蓄電池設備を令和2年度に設置し、現在、稼働し始めており、これらも浄水センターの電力の一部を賅うことになっている。</p> <p>○ 蓄電池設備は、市としては当初60kWhを想定していたが、受注業者の提案により232kWh相当の蓄電池設備を設置している。</p>

委員の質問・意見	唐津市の回答
<p>○ 調査業務と設備工事を抱き合わせで行う事業だが、違和感を感じる。通常、道路工事と測量設計業務は別々に発注している。スマートレジリエンス拠点をつくっていく事業というのは分かるが、それぞれの年度で調査業務と設備工事を抱き合わせで行い、それが拠点づくりの全体構想として当てはめているのか、全体構想は出来上がって構想に基づいて行っているのか、どちらなのか。</p> <p>○ 平成30年度から今年度までの受注業者は別々の業者なのか。</p> <p>○ なにをやれば唐津市にとってメリットがあるかを考えて事業をすべきである。バッテリーを使用した自動車があるが、その方がCO₂の排出が増え問題である。水素の生成設備の設置を計画しているが、水素生成の研究を行えば、10年後には水素を使用した自動車が走っていると思うので、一番活用できると思う。</p> <p>○ 市が全体的な構想を打ち出して、市の構想に合う事業を行うようにしないと、業者の提案どおり事業を行うというのが、本当に良いのか疑問である。</p>	<p>○ 委員からの発言のとおり、今年度は太陽光発電設備と蓄電池設備などハード整備と調査業務を行っている。これらを一体的に発注する理由は、再生可能エネルギーの導入は専門性が高く市職員では想定できないような内容も含まれることから、市が計画した構想を基に業者から調査業務とハード整備事業を抱き合わせで企画提案してもらうことでより良い再生可能エネルギーの設備が導入できると考えて一体的に発注している。</p> <p>○ 平成30年度から令和2年度までの3か年でそれぞれ別々の業者が受注している。前年度にハード整備の可能性調査の報告書を作成し、この報告書に基づいて受注業者を公募しており、これまで市の構想から飛び抜けて違う再生可能エネルギーの設備が導入されたとは考えていない。</p> <p>○ 水素生成設備の設置を計画しているが、今後、水素生成設備の可能性調査を行う。あわせて水素の利活用について唐津市における需要と供給の可能性の調査も行う予定である。委員の発言を参考に今後の将来的なところを考えていきたい。</p> <p>○ 唐津スマートレジリエンス拠点構築事業を構想するにあたり、平成28年度から唐津市地域エネルギー推進戦略会議を実施している。この会議は、市職員のみならず大学や先進的な事業をされている事業者などの有識者に参加していただき、唐津市で導入可能な事業であったり、再生可能エネルギーを推進するにあたって必要なことを議論</p>

令和2年度第2回唐津市建設工事等入札監視委員会

委員の質問・意見	唐津市の回答
	<p>してもらっている。スマートレジリエンス拠点構築事業は、この会議により構想されたものである。確かに市職員では専門的な知識がないため、唐津市地域エネルギー推進戦略会議の有識者の意見を聞きながら、唐津スマートレジリエンス拠点構築事業の構想が全体的に完結していくように進めていきたい。</p>